

シミュレーション研修 ～多重課題への対応を学ぶ～

11月13日（火）～16（金）、19（月）～20（火）の6日間で、新卒者を対象としてシミュレーション研修を実施しました。研修者は「多重課題・時間切迫の状況下における自己の傾向に気づき、安全なケアを高める」という目的のもと、実際の看護場面を想定し、演習を行いました。研修者は「安全を考慮した優先順位の判断」「基本に沿った看護ケアの実施」「先輩看護師への応援要請（報告、連絡、相談）」「患者に対して適切な態度や言葉づかい」に配慮しながら実際に看護師役、患者役、観察者となり演習を行いました。様々な視点から看護実践を見つめ直し、グループワークでの振り返りを通して自分の傾向を知ったり、チームとしての役割等多くの気づきを得て、学びを深めていました。

ブリーフィング（導入）



＜安全を考慮した優先順位の判断＞

喀痰の貯留によりSpO2が低下している患者さんや転倒リスクが高い患者さんの歩行介助など多重課題、時間切迫の中で、チームとしてどう行動、対応していくべきか考え、演習ごとに振り返り、次の演習に活かしていきました。

＜基本に沿った看護ケア＞

患者さんの安全を守るためにどのような状況下でもキョクイファイナルチェックや7Rでの確認が重要だと再認識していました。

＜先輩看護師への応援要請＞

報告・連絡・相談の伝え方やタイミングの難しさについて実感していました。SBARも使用しながら先輩看護師への応援要請の仕方についてグループで考えました。

＜適切な態度や言葉づかい＞

研修者が実際に患者役を経験することで患者さんの目線を合わせた丁寧な声かけや切迫下においてもねぎらい言葉をかけることで患者さんの安心感に繋がることを学びました。



実践・演習場面



薬剤の安全なダブルチェック



輸液ポンプの正しい取り扱い



右麻痺のある患者さんへの歩行介助



先輩看護師への応援要請



演習後の振り返り

薬のチェックの時に指差し確認が出来ていましたね。継続していこう。

先輩にどう伝えたら良かったらいい？

＜デブリーフィング＞

良かった点や改善点を振り返り、共有することで、自己の傾向や課題に気づき、今後の実践に繋げることができていました。



デブリーフィング（振り返り）